

# 認 定 書

国住指第 558 号  
平成 26 年 7 月 15 日

因幡電機産業株式会社  
代表取締役 守谷 承弘 様

国土交通大臣 太田 昭宏



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ（防火区画貫通部 1 時間遮炎性能）の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号  
PS060WL-0757
2. 認定をした構造方法等の名称  
ケーブル・電線管付ケーブル／樹脂シート付熱膨張性ロックウールシート充てん／壁耐火構造／貫通部分
3. 認定をした構造方法等の内容  
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

## 1. 構造名

ケーブル・電線管付ケーブル／樹脂シート付熱膨張性ロックウールシート充てん／壁耐火構造／貫通部分

## 2. 寸法および形状等

(寸法単位：mm)

項 目		申 請 構 造
開 口 部	形状	円形
	面積	0.020106 m <sup>2</sup> (φ160) 以下
占積率 (開口面積に対する ケーブル断面積の割合)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ φ160 以下の場合   : 35.28% (0.007094 m<sup>2</sup>) 以下</li> <li>・ φ110 以下の場合   : 35.86% (0.003408 m<sup>2</sup>) 以下</li> </ul>
貫通する壁の構造等		(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) 建築基準法施行令第115条の2の2第1項第一号の規定に基づく準耐火構造(60分)の壁 ・ 壁厚70以上 (2) 建築基準法第2条第七号の規定に基づく耐火構造(60分)の壁 ・ 壁厚 70 以上

3. 材料構成  
1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造		
ケーブル	総有機量	φ160 以下の場合 4.273kg/m 以下 φ110 以下の場合 2.159kg/m 以下	
	総導体断面積	φ160 以下の場合 0.0018644 m <sup>2</sup> 以下 φ110 以下の場合 0.0008967 m <sup>2</sup> 以下	
	規 格 (種 類)	・規格 次の規格のうち、いずれか一仕様とする JIS C 1502, 1610, 3306, 3307, 3312, 3317, 3323, 3327, 3340, 3342, 3401, 3401 準拠, 3407, 3408, 3503, 3501, 3501 準拠, 3502, 3603, 3605, 3605 準拠, 3606, 3612, 3621, 3662, 3663, 6020, 6021 準拠, 6850 JCS 第 224 号, 第 271 号 A, 第 364 号 A, 第 376 号 A, 第 381 号, 第 396 号, 第 396 号 A, 第 402 号, 第 416 号, 第 418 号 B, 第 419 号 A, 第 420 号, 第 421 号, 第 422 号, 第 423 号, 第 426 号, 第 427 号, 第 3271 号, 第 3271 号 準拠, 第 3346 号, 第 3368 号, 第 3403 号, 第 3407 号, 第 3410 号, 第 3416 号, 第 3417 号, 第 3501 号, 第 4258 号, 第 4271 号, 第 4316 号, 第 4329 号, 第 4347 号, 第 4348 号, 第 4353 号, 第 4355 号, 第 4364 号, 第 4364 号 準拠, 第 4369 号, 第 4370 号, 第 4376 号, 第 4395 号, 第 4396 号, 第 4398 号, 第 4406 号, 第 4418 号, 第 4419 号, 第 4419 号 準拠, 第 4425 号, 第 4426 号, 第 4427 号, 第 4501 号, 第 4502 号, 第 4504 号, 第 4505 号, 第 4506 号, 第 4507 号, 第 5058 号, 第 5224 号, 第 5287 号, 第 5327 号, 第 5381 号, 第 5382 号, 第 5383 号, 第 5402 号, 第 5412 号, 第 5420 号, 第 5421 号, 第 5422 号, 第 5423 号, 第 5424 号, 第 5381 号 準拠, 第 5501 号, 第 5502 号, 第 5504 号, 第 5504 号 準拠, 第 9068 号, 第 9070 号, 第 9072 号, 第 9069 号, 第 9071 号, 第 9073 号, 第 9074 号, 第 9075 号, 第 9076 号 JCSC 第 68 号, 第 70 号, 第 71 号, 第 72 号, 第 74 号, 第 75 号, 第 76 号, 第 3502 号, 第 5382 号, 第 9074 号, 第 9075 号, 第 9076 号, 第 3271 号 準拠, 第 9072 号 準拠 LAN ケーブル EIA/TIA 568A, EIA/TIA 568A 準拠, EIA/TIA 568B, EIA/TIA 568B 準拠, EIA/TIA IEEE802.3, EIA/TIA IEEE802.3 準拠 ANSI EIA/TIA 568A, ANSI EIA/TIA 568A 準拠, ANSI EIA/TIA 568B, ANSI EIA/TIA 568B 準拠, ANSI EIA/TIA IEEE802.3, IEEE802.3 準拠 高周波同軸ケーブル JAN-C-17, MIL-C-17, DSP-C-3102, 電力規格 D-102, JCAA 準拠 耐火電線・耐熱電線 平成 9 年消防庁告示第 10 号, 第 11 号	
	外 径	φ160 以下の場合 37 以下 (3 本より合わせ外径：68 以下) φ110 以下の場合 34 以下 (3 本より合わせ外径：62 以下)	
	導体断面積	φ160 以下の場合 光ファイバケーブル以外 325mm <sup>2</sup> /本以下 光ファイバケーブル 14.7mm <sup>2</sup> /本以下 φ110 以下の場合 光ファイバケーブル以外 250mm <sup>2</sup> /本以下 光ファイバケーブル 14.7mm <sup>2</sup> /本以下	
本 数	総有機量を各ケーブルの有機量で除した数以下かつ総導体断面積を各ケーブルの導体断面積で除した数以下		
導体種類	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) 銅 (2) アルミニウム (3) ガラス繊維 (光ファイバケーブルに限る)		

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造	
ケーブル	絶 縁 体	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン系樹脂 (2) 塩化ビニル系樹脂 (3) ゴム系樹脂
	シ ー ス	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン系樹脂 (2) 塩化ビニル系樹脂 (3) ゴム系樹脂
	介 在 物	(1)～(4)のうち、いずれか一仕様とする (1) 紙 (2) ジュート (3) ポリプロピレン (4) なし

(寸法単位：mm)

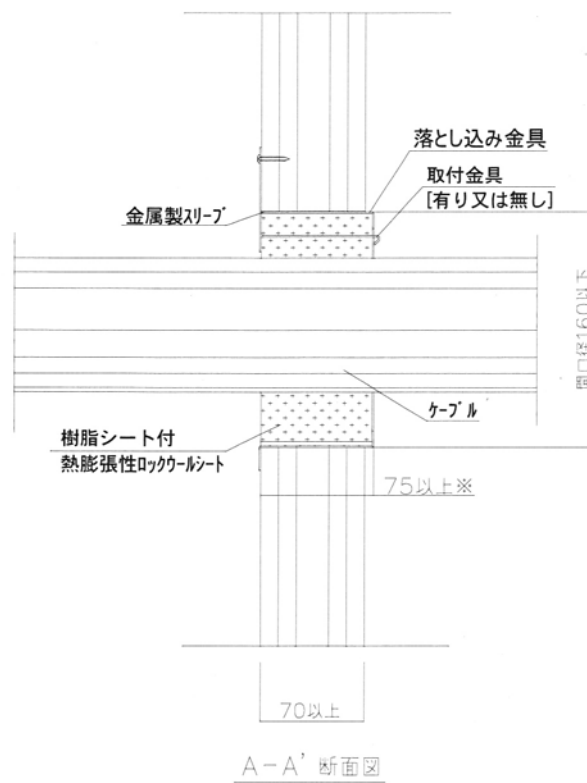
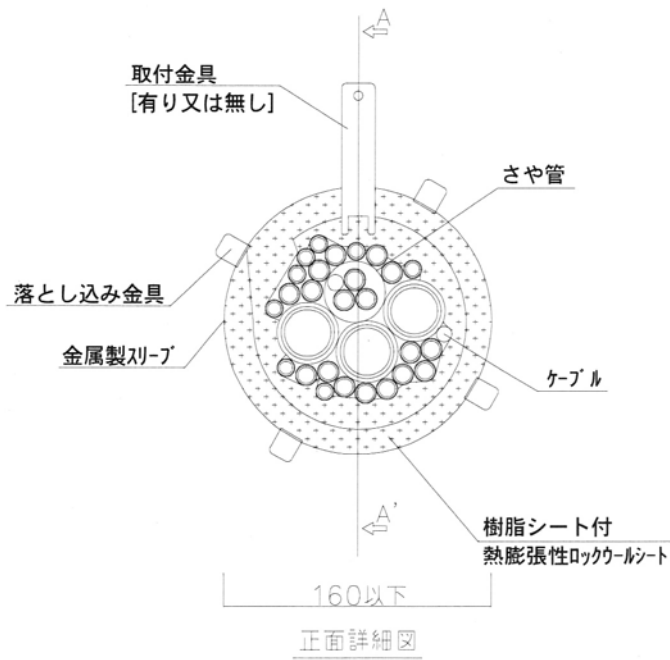
項 目	申 請 構 造	
合成樹脂可とう電線管	規 格	JIS C 8411
	外 径	36.5 以下
	厚 さ	2.0 以下
	本 数	3 本以下
	材 質	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン系樹脂 (2) ポリ塩化ビニル系樹脂
電線管内ケーブル	規 格 (種 類)	上記ケーブルと同じ
	外 径	13 以下 (3 本より合わせ外径：30 以下)
	導体断面積	光ファイバケーブル 14.7mm <sup>2</sup> /本以下 光ファイバケーブル以外 38mm <sup>2</sup> /本以下
	本 数	総有機量を各ケーブルの有機量で除した数以下かつ総導体断面積を各ケーブルの導体断面積で除した数以下
	導体種類	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) 銅 (2) アルミニウム (3) ガラス繊維 (光ファイバケーブルに限る)
	絶 縁 体	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン系樹脂 (2) 塩化ビニル系樹脂 (3) ゴム系樹脂
	シ ー ス	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン系樹脂 (2) 塩化ビニル系樹脂 (3) ゴム系樹脂
	介 在 物	(1)～(4)のうち、いずれか一仕様とする (1) 紙 (2) ジュート (3) ポリプロピレン (4) なし

項 目		申 請 構 造		
防火措置材料	耐火シート	組 成 (質量%)		
		充てん量	開口面積-総ケーブル断面積 $\leq$ 厚さ $\times$ 長さ φ160 以下の場合 ・寸法 幅 75 以上 φ110 以下の場合 ・寸法 幅 50 以上	
		密 度		
		材 質	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリオレフィン系不織布 (2) ポリオレフィン系樹脂フィルム (3) ポリアミド系樹脂フィルム	
		厚 さ	0.55 以下	
	補助パット (あり又はなし)	熱膨張性 ロックウール シート	組 成 (質量%)	
			密 度	
		梱包紙	材 質	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリオレフィン系不織布 (2) ポリオレフィン系樹脂フィルム (3) ポリアミド系樹脂フィルム
			厚 さ	0.55 以下
	落とし込み 金具		材 質	(1)～(6)のうち、いずれか一仕様とする (1) 溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 (2) 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3317 (3) クロムめっき鋼板 ・規格 JIS G 7122 (4) ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4305 (5) 熱間圧延軟鋼板 ・規格 JIS G 3131 (6) 冷間圧延鋼板 ・規格 JIS G 3141
			外 径	開口径による
			厚 さ	1.2 以上

項目		申請構造	
防火措置材 (つづき)	取付金具 (あり又はなし)	材質	(1)～(6)のうち、いずれか一仕様とする (1) 溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 (2) 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3317 (3) クロムめっき鋼板 ・規格 JIS G 7122 (4) ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4305 (5) 熱間圧延軟鋼板 ・規格 JIS G 3131 (6) 冷間圧延鋼板 ・規格 JIS G 3141
		厚さ	1.0 以上
	金属製 スリーブ	形状	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) 板状 (2) 筒状 (3) スパイラル状
		材質	(1)～(8)のうち、いずれか一仕様とする (1) 溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 (2) 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3317 (3) クロムめっき鋼板 ・規格 JIS G 7122 (4) ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4305 (5) 熱間圧延軟鋼板 ・規格 JIS G 3131 (6) 冷間圧延鋼板 ・規格 JIS G 3141 (7) プリキ ・規格 JIS G 3303 (8) なし(中空壁の場合を除く)
		外径	開口径による
		厚さ	0.25 以上
		長さ	70 以上

4. 構造説明図

(寸法単位：mm)



\*：開口径 110 以下の場合は 50 以上

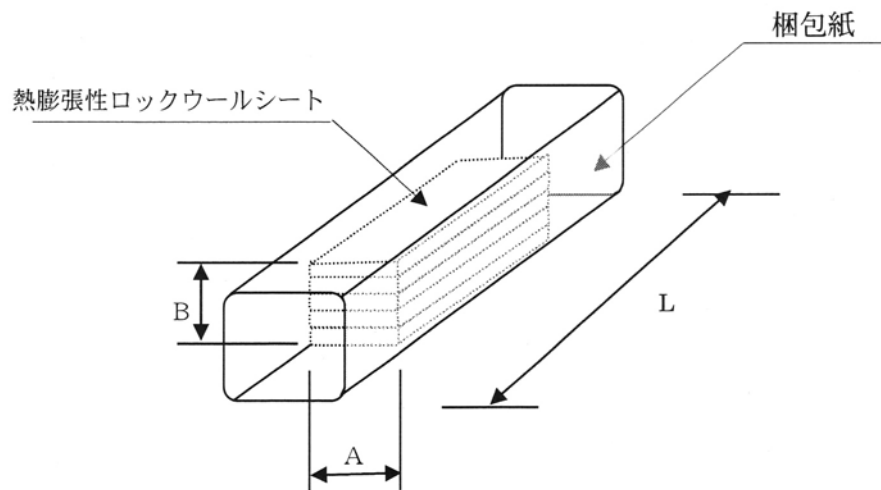
注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

(別添-7)



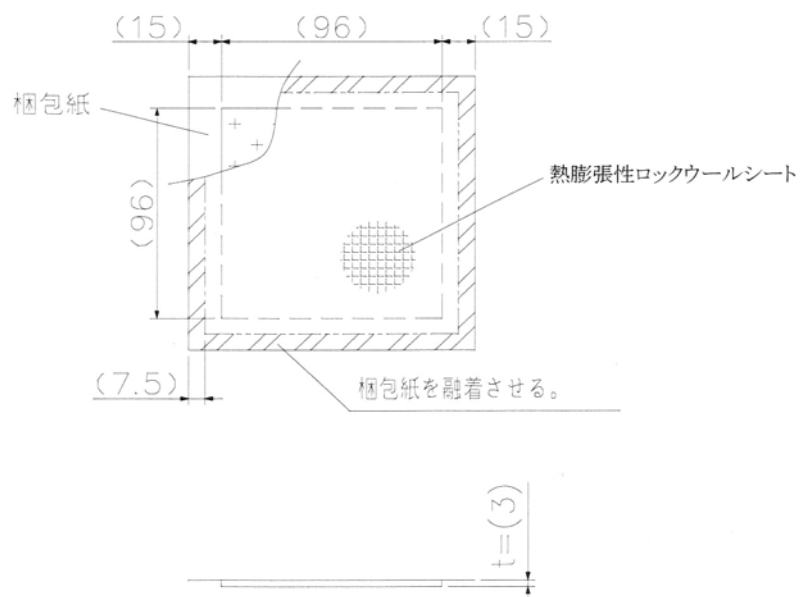
〈耐火シートの詳細図〉

(寸法単位：mm)

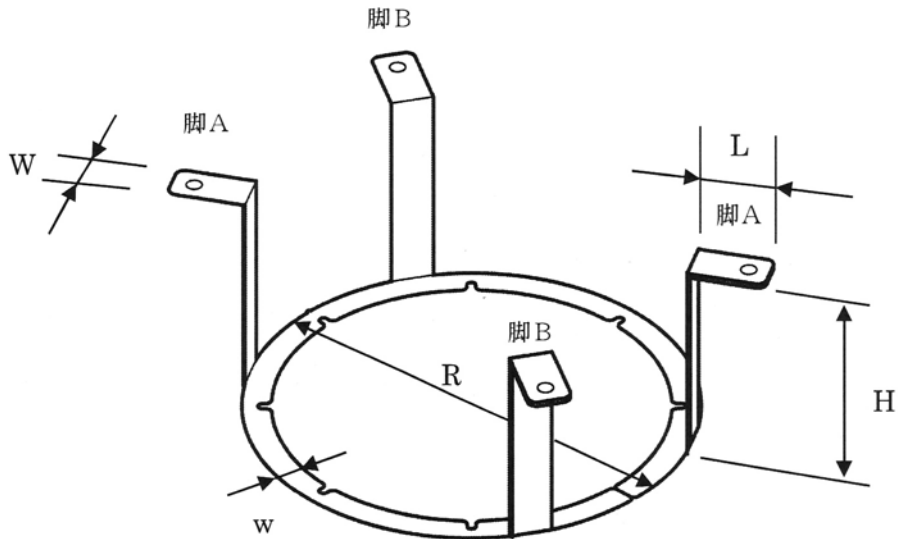


適合開口径	幅 (A)	厚さ (B)	長さ (L)
55 以下	50 以上	厚さ (B) × 長さ (L) ≥ 開口断面積 - 総ケーブル断面積	
80 以下	50 以上		
110 以下	50 以上		
135 以下	75 以上		
160 以下	75 以上		

〈補助パッド図〉

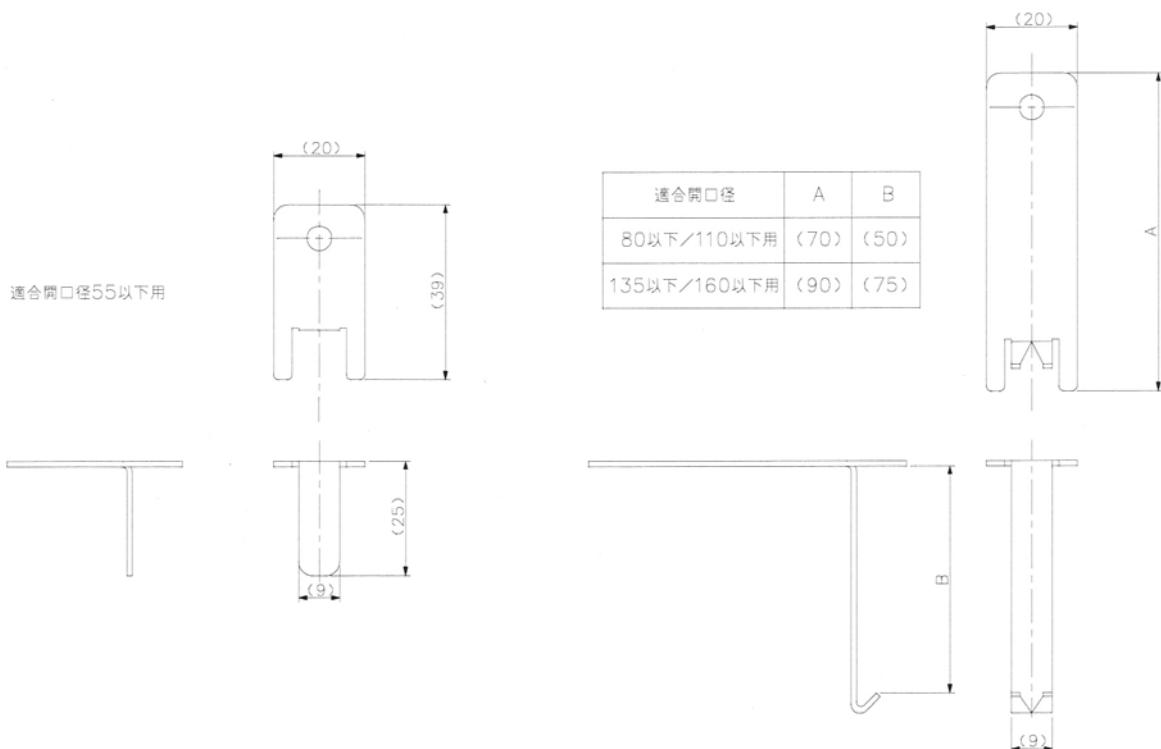


落とし込み金具



適合開口径	R	H	W	w	L	備考
55 以下	開口径 による	50 以上	15 以上	7.4 以上	25 以上	脚 A のみ
80 以下		50 以上	15 以上	7.4 以上	25 以上	
110 以下		50 以上	15 以上	10 以上	25 以上	-
135 以下		75 以上	15 以上	10 以上	25 以上	
160 以下		75 以上	15 以上	10 以上	25 以上	

取付金具



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

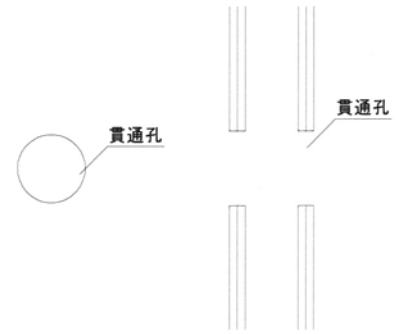
(別添-9)

## 5. 施工方法等

施工図（手順）を以下に示す。

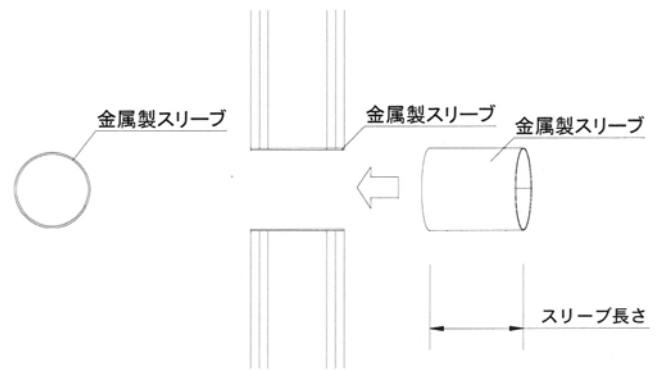
### ① 貫通孔を設ける

最大開口径、最大占積率を考慮し貫通孔を設ける。



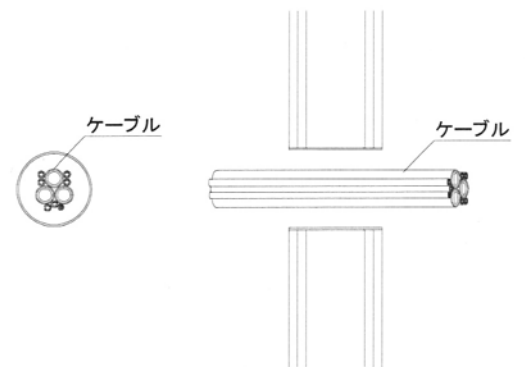
### ② スリーブの挿入

- 区画貫通孔に金属製スリーブを挿入する。
- ※ 壁内において貫通部から 15cm 以内に可燃物がある場合は鋼製電線管周りを不燃材料で覆い、有効に断熱させる。
  - ※ 但し ALC, コンクリート等の中実な壁の場合は無しでもよい。
  - ※ 必要に応じてセメントで貫通口とスリーブの隙間を埋める。
  - ※ スリーブ長さは壁厚さと同様



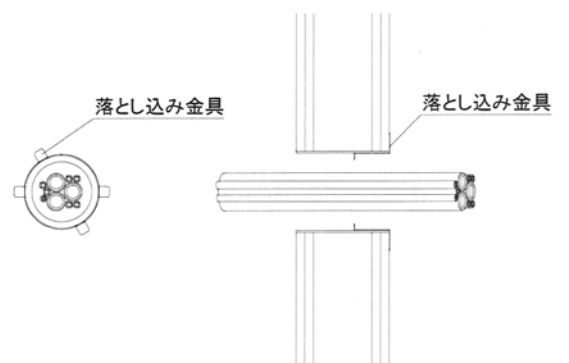
### ③ ケーブルの配線

ケーブルを配線（通線）する。



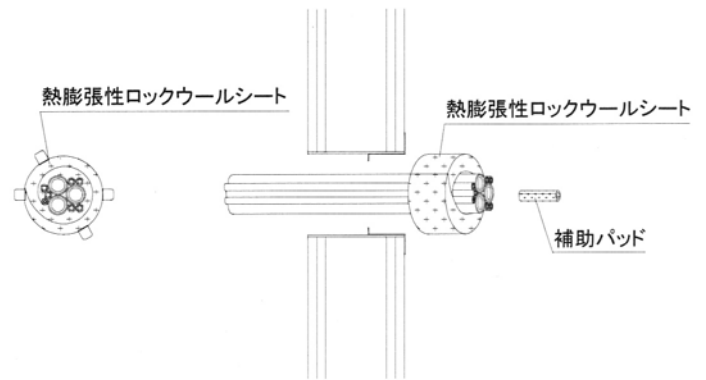
### ④ 落とし込み金具の挿入

- ケーブルを挟むように、落とし込み金具を貫通孔に挿入する。
- 金具は金具のつばで固定する。
- ※ 必要に応じてビス留め処置を施す。



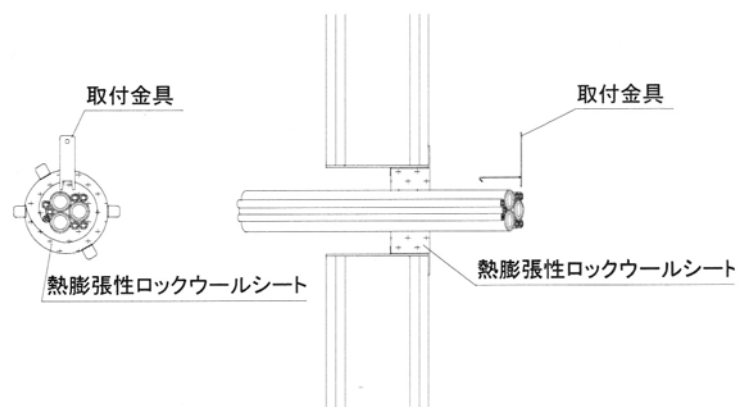
### ⑤ 熱膨張性ロックウールシートの巻付け

ケーブルに熱膨張性ロックウールシートを1周以上巻付ける  
必要に応じて補助パッドを併用し  
ケーブルの隙間を埋める。



### ⑥ 熱膨張性ロックウールシートの設置

ケーブルに巻付けた熱膨張性ロックウールシートを壁内に75mm以上になるようにスライドさせる。  
(開口径110mm以下のときは50mm以上)  
また、ケーブルと熱膨張性熱膨張性ロックウールシートの間隙がないかを確認する。(隙間をなくす場合においては必要に応じて専用補助パッドを併用する。)



- ※ 落としこみ金具の先端に当たるまでスライドさせる。
- ※ 必要に応じて取付金具をシートに差し込みビス留めさせる。(適合開口径φ55以下の場合、開口に沿わせて金具を差し込みビス留めさせる。)

## 6. 注意事項

ケーブルは、火災時に過大な荷重がかかり、壁を損傷することがないように針金、架台等を併用し固定する。